

Support Our Kids × KAKEHASHIプロジェクト
第3回 海外ホームステイプログラム in USA
実施レポート



2014年3月

Support Our Kids実行委員会

1. 概要

■プログラム概要

日程：2014年3月16日～3月29日

※16・17日:東京にて事前研修／28日:成田にて解散式

場所：シアトル・ロスガトス・アトランタ

参加：23名（被災地の中学2年生～高校3年生22名＋東北福祉大生1名）

■プログラム内容

- ・日本や地元の魅力を伝える英語プレゼンテーション
- ・短期留学
- ・ホームステイ
- ・異文化交流
- ・観光・アクティビティ

■企画協力

外務省（KAKEHASHIプロジェクト）、アメリカ大使館

国際交流基金日米センター、ロシア協会

公益財団法人ラボ国際交流センター、アゼリーグループ

東北福祉大学、RHトラベラー株式会社

※敬称略・順不同

■スケジュール

March 2014

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
16 Support Our Kids 事前研修	17 KAKEHASHI プロジェクト 事前研修 羽田発 シアトル着	18 シアトル 市内視察	19 オリエンテーション プレゼンテーション	20 現地高校交流 (プレゼンテーション) 在シアトル領事館レ セプション	21 シアトル 市内視察 現地企業訪問 (UWAJIMAYA)	22 シアトル発 ロスガトス 着 ホームステイ
23 ホストファミリー と過ごす	24 現地高校交流 (プレゼンテーション) ホームステイ	25 ロスガトス発 アトランタ着 アトランタ 市内視察	26 アトランタ 市内視察 レセプション	27 アトランタ発	28 成田着 解散式	29 帰宅

2. 事前研修

■Support Our Kids 第1回事前研修

日時：2013年12月21日 14:00～18:00

場所：宮城県 東北福祉大学

内容：英語プレゼンテーションの準備
グループワーク
※研修後は各グループでプレゼン準備を進めました。



事務局長 秋澤志篤

■Support Our Kids 第2回事前研修

日時：2014年3月16日 13:15～17:00

場所：東京都内

内容：チームのコミュニケーション強化
多様性ダイアログ
英語プレゼンテーションの練習
アメリカについて各自調べたことを共有
グループ目標を決め、出発に向けて意識を高めました。



アゼリーグループ 理事長 来栖宏二氏



公益財団法人ラボ国際交流センター
講師 鳥村征弘氏

■KAKEHASHIプロジェクト事前研修



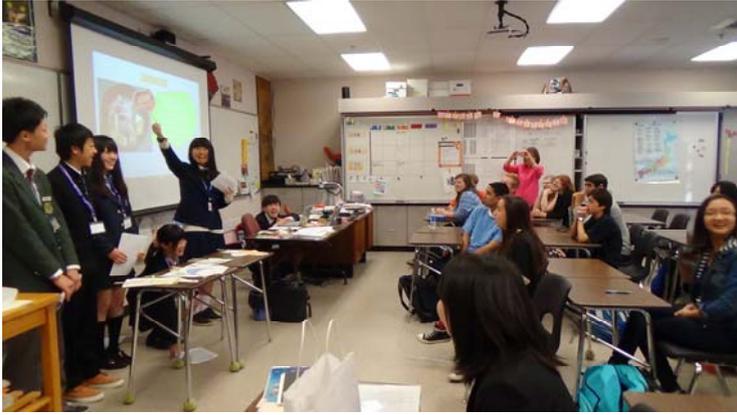
日時：2014年3月17日 9:00～16:30

場所：東京都内

内容：KAKEHASHIプロジェクトオリエンテーション
米国事情について
プレゼンテーションレクチャー
ゲストスピーチ（駐日米国大使館）



3. 現地の様子



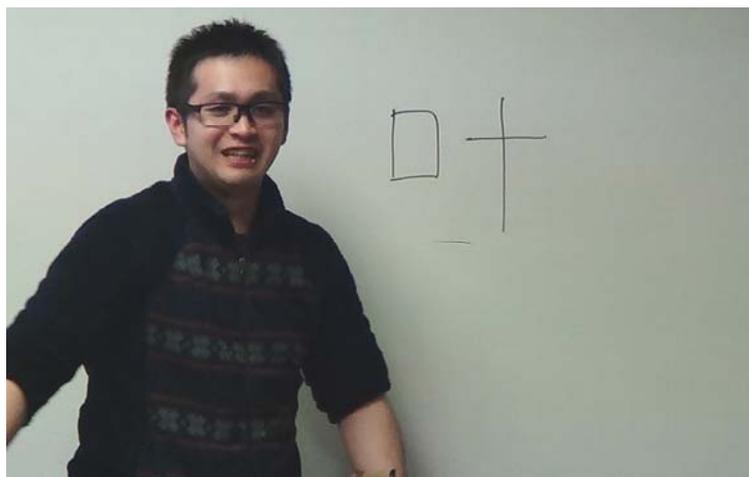
4. 帰国・解散式

■解散式

日時：2014年3月28日 19:15～21:15

場所：東京都内

内容：ホームステイプログラムの振り返り。
海外で学んだこと、感じたこと、今後に活かしたいこと、
支援して下さいました方に伝えたいこと等について発表しました。



5. 参加者の感想

■S.Sさん（宮城県・高1・女）

私はアメリカで素晴らしい経験をさせていただきました。今、私の両腕は抱えきれないほどの光輝く思い出の宝物でいっぱいです。このような経験をさせていただき本当に感謝しています。将来はこの経験を礎に、宮城、東北、そして日本と海外の架け橋になり、自分がそうされたように未来の子どもたちを海外に送り出していきたいです。さらに震災の支援として地元のイベントに積極的に参加したいと思っています。

今までは目の前の小さなことしか考えられず、大きな目標もなく、ただぼんやりと日々の作業をこなすような生活でした。しかし、今回の研修を経て自分の世界が広がったことで夢が目標に変わり、胸を張ってそのことを言えるようになりました。こんな私に出会えるとは思っていませんでした。今回のプロジェクトを支えてくださった全ての人と、TeamSOKのみんな、ホストファミリー、そして両親に心から感謝します。本当にありがとうございました。

■K.Uさん（福島県・中2・男）

僕の今回の一番の収穫は、SOKのみんなとつながりを持つことができたことです。特に震災の体験を共有できたことで、辛かったのは自分たちだけじゃないということ、そして、一緒に旅をする中で、その辛さを乗り越え、みんな前進しているということが実感できました。今回のプログラム中に14歳の誕生日を迎え、みんなにPizza Partyをしてもらったことは一生の思い出です。

また、ホームステイを経験し、観光とは違い、文化の違いを肌で実感し、更にコミュニケーションの大切さと自分の意見を持つことの重要性を知りました。同時に、日本の文化についてあまり知らない自分にも気付き、改めて自国の文化について学ぶことの大切さも感じました。今回自分はあまり被災地の現状を伝えることができなかつたのが一番後悔していることです。質問されなくても、もっと積極的に被災地の今を伝えるべきだったと思います。今回のこの後悔を、今後のHABATAKIプロジェクト(復興プロジェクト)に必ずつなげていかなければならないと思います。そして、それが今回このような貴重な機会を作ってくれた方々への感謝の気持ちに伝えることにつながると思います。

■A.Sさん（岩手県・高1・男）

今回のプログラムを受ける前、将来について悩んでいました。参加しようと思った理由は、参加すれば何かつかめるのではないかと思い自分を変えるきっかけにしようと思ったからです。また、自分が震災を通して感じた「人の心」をもっとより多くの人にわかってもらえたらと考えたからです。

アメリカで特に印象に残っていることは、言葉の違う相手に対してのコミュニケーションのとり方です。相手に「伝わるか」「伝わらないか」ではなく、「伝えるか」「伝えないか」というのが自分が実感したことです。被災地の復興はまだまだ続くと思います。しかし、同じ日本であってもこの震災について理解している人は少ないと思います。今回の経験を通して学んだ「人とのコミュニケーションのとり方」や「考えていることを分かりやすく伝えること」を活かして、今後の被災地の復興、特に被災地の現状を人々に伝えたいと思っています。この2週間は自分の人生の中でとてもかけがえのない時間でした。本当にありがとうございました。